



いまだコロナ禍ではありますが、東京オリンピック・パラリンピックがすぐそこまで近づいてきました。コロナ感染症予防の観点から、これまでと同じようには開催されませんが、オリンピックで、たくさんのアスリートたちの姿を見られるのはとても楽しみです。この日のために、ずっと努力を重ねてきたアスリートたちの姿から学ぶことはとても大きいと思います。日本を応援するもよし、何かの競技に集中して観戦するもよし、4年に一度のスポーツの祭典



をぜひ楽しみたいものです。夏の訪れとともに、オリンピックが無事に開催されますように…。

ひと月に1回、『光のトビラ』（道徳通信）を発行します。ホームページにもアップしますので、おうちの方と一緒に読んでもらえたらと思います。「心の豊かな人になってもらいたい」これが私たち、七条中学校の教職員の願いです。

＊—＊—＊—＊—**授業の様子を紹介します**—＊—＊—＊—



“ぼくのふるさと”

自分のふるさとに親しみを感じて、ふるさとのためにできることを始めようとする作者の姿から、ふるさと・地域のために自分ができることについて考えました。自分も地域を支える一員です。どこで暮らしていても、ふるさとのために自分ができのことを考え、大切にしながら生きていくことが、よりよい人生を送ることにもつながります。今、総合的な学習の時間で「七条エリアマイスターへの道」をテーマに取り組んでいます。地域のことを知ることが、「ふるさとを大切にする」ことにもつながります。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・私はふるさとを大事にすることも良いことだけど、他府県にもたまには目を向けることが大切だと思う。私は京都が好きだ。でも、京都ばかりにこもっているより、もっと周りを見た方が良いと思う。京都だけの良さ・課題を見つけるより、他府県の良さや課題と一緒に比べ、よりよいふるさとをつくれればいいと思う。
- ・皆が皆、生まれ育った町が好きではないので、私はそういう人が少しでも、ふるさとが好きだったなと思ってくれるために、ボランティア活動を行うのがいいと思う。自然が少なくとか、空気をきれいにしたいという意見もあるから、ゴミを減らすためのポスター活動をやったりして、自分にできる活動を行っていかないと、この町を好きという人は増えないと実感した。
- ・自分の好きな店や地域のイベントとかに盛んに参加したり、子どもたちと一緒に遊んだりしたい。それに、大人になって町に戻ってお世話になった人に恩返しをしたい。
- ・私は将来どうしているのか分からないし、何を思うかは分からないけど、ふるさとのことを“なつかしい”と感じている気がする。七条の〇〇好きとかいう好きよりも、私自身の今の大切な人達に出会って育った地域だから、大好き。今の私をつくってくれた町だから好きだ。だから、私もだれかにこの地域が好きだと言ってもらえるような、この元気で笑顔あふれる七条を守っていきたい。

2年生 “私のせいじゃない”

学校の教室で、ある子が泣いています。一体どうしたのでしょうか。他の子どもたちの言い分はこうです。「学校の休み時間にあったことだけど、わたしのせいじゃないわ」「始まったときのこと見てないからどうしてそうなったのか、ぼくは知らない」「とにかくわたしのせいじゃないのよ」どうやらイジメが原因で、その子は泣いているようです。ところが、子どもたちの言い分は他人事。自分が加担していなければ悪くないのでしょうか。みんながしているなら許されるのでしょうか。少しだけなら許されるのでしょうか。イジメられるほうが悪いのでしょうか。



責任について考えることは、自分の人格を見つめなおすことなのかもしれません。簡単なことではありませんが、だからこそとても大事なことです。同調圧力により、誰かが苦しむことのないように、広い視野を持って行動してほしいと願っています。

《ワークシートより（授業の感想）》

いじめとは

- ・ 完全になくすことはできないかもしれないけど、止めることはできるもの。
- ・ 人を孤独にさせるもの。 ・ 相手の気持ちを考えられない人が起こすもの。
- ・ やっている人の気持ちがわからないもの。（いじめる意味が分からない）

感想

- ・ 見ていなくてもいじめる側になる。そういう空気を許さないことが大切だと思う。
- ・ 同調圧力によって起こり、大きくなっていく。大きなトラブルになる前に自分は止めようと思う。
- ・ いじめが起こるような環境を作ったら、全員に連帯責任がある。そうなる前に危機感を持つことが大事。
- ・ 直接、いじめを止めに入るのは無理でも、先生に相談するとか、何か力になりたい。
- ・ いじめを成り立たせるのは、やってもいいという空気。個人の思いからいじめは始まる。その空気を作る全員が流されて同調圧力となるような大人になってはいけないと思う。

3年生 “その子の世界, 私の世界”

「僕たちが採っているカカオから、チョコレートができるんでしょ？チョコレートってどんなものなの？」カカオ農園で働く少年が持つ疑問。ガーナの5～14歳の子どもたちの20%の子どもが児童労働をしている現実。国際社会の問題は、単純に「よい」か「悪い」か、で割切れないことが多く存在します。まずは世界の様々な問題に関心を持つこと、そして人類の幸福のために何が必要なのか、多面的、多角的に考える機会を持つことが大切です。総合的な学習の時間に取り組んでいるSDGsの問題に関連させて、自分たちに何ができるのかをしっかりと考え行動できるようになってほしいです。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・ 今の恵まれている環境にいるのだから、できること、チャレンジできることはしようと思った。知って関心を持つことで、解決策も考えるきっかけになるので、もっと広まってほしいと思った。勉強をしてきて事実は知っているのに、解決策は結局わからず、何もできないのでやるせない気持ちになった。
- ・ 僕が今日の授業で感じたことは「知ること」である。だけど、今の現実では知ることだけでは通用しない。「知ること」の次の行動がとても大切になる。世界の貧困や飢餓をなくすために僕らができることをして、世界が平和に、そして笑顔でいられるようにしたい。
- ・ マララさんのように、大きな舞台で発言する勇気も力もないけれど、1人1人が意識することで世界は変えられると思う。